

薬剤業務の達人が書いた 与薬の“指南書”

[評者] 星恵理子 杏林大学医学部付属病院医療安全管理室

目からウロコのクスリ問答

荒井有美 著

A5判, 200ページ

定価 2100 円(本体 2000 円+税 5%)

医学書院 TEL. 03-3817-5657

目からウロコの
クスリ問答

荒井有美



医学書院

薬剤治療は医師、薬剤師、そして看護師の職種が関わって実施されているが、患者への直接与薬は看護師が行なうことが圧倒的に多いため、看護師のインシデントが多い反面、与薬のエラーを防ぐ最後の砦も看護師であるといわれている。つまり、看護師は与薬業務の要なのである。それにもかかわらず、薬剤の知識が多少曖昧でも、通常の手順どおりにことを運べば与薬は完了してしまう。しかし、ひとたびエラーが起きてみると、その原因は正しい知識の不足や、流れ作業として業務を行なった結果であることは少なくない。

カリウムが危険な薬剤であることを筆者自身が確実に認識できた瞬間は、エラーを起こしたときであった。配合禁忌を知らずに点滴を行なって閉塞させたことや、冷所保存をせずに常温に放置して注意されたこともある。ただ、エラーが起きたときに、先輩から「なんで知らないの?」と言われたことはあっても、添付文書に戻って確認することや、薬剤パッケージにあるケアマークの意味を、正しく教わったことは記憶にある限り、ない。そのときに本書があれば、その後の薬剤に関するインシデントは減っていたかもしれない。

■安全な薬剤業務のための知識が盛りだくさん

本書は、薬剤師として7年間従事した後、看護師資格を取得し、現在現役で活躍中の臨床看護師である著者が臨床看護師のために書いた本である。まさに薬剤業務の達人が書いた与薬の“指南書”であり、臨床現場の看護師が薬剤業務を安全に行なうために必要な知識が盛りだくさんである。例えば、患者の持参薬の取り扱いとその重要性、服薬指導、市販薬や薬価について説明されている。これは入院中の処方薬の管理のみではなく、患者

の立場からみた、患者にとっての「おくすり」の話でもあると感じた。また会話形式となっているために読みやすく、なぜこの薬剤管理方法が必要なのか、ということの根拠も同時に理解できる仕組みになっている。

■薬剤に関する多様な知識を実践レベルで整理

新人の看護師にはまず、与薬の手順や5R(正しい患者、正しい薬剤、正しい量、正しい時間、正しい方法)の確認の重要性を与薬業務として指導している。しかし、それだけでは実際の与薬業務のエラーは防止できない。薬剤の違いによる準備や方法、点滴セットの違い、服薬指導など、知るべきことは多く、多岐に渡る。その山のような知識を一度に教えられるはずもなく、いきおいOJTや経験によって覚えていくものがほとんどである。エビデンスの重要性が叫ばれて久しいものの、看護師の実務的な細かい薬剤の知識はまだまだ系統立てられていないのではないだろうか。

本書は、バラバラに教えがちな薬剤に関する多様な知識を、実践レベルで整理してまとめているため、現場でおおいに活用できる。新人看護師はもちろん、経験と知識をもつ先輩看護師にもぜひ読んでほしい。与薬について後輩に指導することうけあいである。さらに、薬剤師の方にもおすすしたい。薬剤師にとっては当たり前のことでも、看護師は本書にあるような知識について不十分であることを知り、看護師の与薬業務に力を貸してほしい。「困ったときに薬剤師の応援をもっと求めている」という、著者からの力強いメッセージを感じるのには私だけではないだろう。